JAいしかり

2018
12月号
Vol.357

12P　最終回

“還暦おやじ”の新人農業者手帳

平成27年度新規就農者　遊佐宏文（ゆうさひろふみ）さん

今年もシーズン到来！

～漬物野菜即売会～

10月27日～11月4日、地物市場とれのさとで、漬物野菜即売会を開催しました。

毎年恒例となったイベントで、需要期に合わせて漬物の材料となる大根、干し大根、土付き大根、白菜、キャベツ、大球、土付き長ネギ等の販売を行い、初日は大雨にもかかわらず長蛇の列ができる程の人気でした。

価格についてはだいたい例年並みですが、大球だけは品薄の為に市場も例年の倍近い値段での販売となりました。終日たくさんのお客様に来店していただき、期間中の来客数は約8，600人、売上は1，480万円超となりました。

初の新米試食会で食味を評価

10月19日、当ＪＡ本店大会議室で平成30年産新米試食会を実施し、役員と各部長が参加しました。

この試食会は初めての試みで、米麦振興会が五の沢地区の櫻田勲さんに依頼し今年度栽培試験を実施した品種「ゆきさやか」、昨年度石狩管内で金賞受賞の「ゆめぴりか」、当ＪＡで作付面積が最も多く「加夢加夢」としても馴染みの深い「ななつぼし」の３品種の食味評価を目的に行いました。

食味に対しての消費者の意識は高く、先日とれのさとで行ったアンケート（９月22日～９月24日実施）では、食味は消費者にとって購入時に最も重視されているという結果が出ています。

「ゆきさやか」は〝幻のお米〟とも呼ばれ、炊きあがりが雪のように白く艶めいていて試食会でも高評価でした。この「ゆきさやか」は地物市場とれのさとのみでの限定販売となっていますので、この機会に是非お買い求め下さい！また、「ゆめぴりか」「ななつぼし（加夢加夢）」「きたくりん」も絶賛販売中ですので併せてご賞味ください。

石狩の新米のおいしさをＰＲ

10月16日、石狩産「ゆめぴりか」の新米ＰＲを競輪等の複合型場外発売場「サテライト石狩」で行いました。これは、道庁が行っている秋の全道Ａｉｂａまつりの一環で、石狩振興局、石狩市、サテライト石狩の職員と共に石狩産農産物をアピールしました。

１００円以上の馬券購入者、先着１００名に「ゆめぴりか」９００グラムをプレゼントし、更に馬券を千円以上購入した方は「ゆめぴりか」２キロが当たるガラポン抽選会にも参加できるというもので、中には何回も購入して抽選にチャレンジしているお客様もいました。

新米をプレゼントされた方は「早速夕食で食べたい」と笑顔がこぼれ、石狩産米を大いにＰＲできました。

青年部サツマイモ認知度が急上昇↗↗

☆イチオシモーニングと金スマに登場☆

10月16～17日、青年部がサツマイモの収穫作業を行いました。

今年は鳴門金時に品種を絞って5a植え、低温や天候不順などによる生育の遅れが心配されていましたが予想を遥かに上回る生長ぶりで、部員の顔にも喜びがあふれていました。

10月28日には、地物市場とれのさとで対面販売会を行い、開店と同時に多くのお客様が詰めかけるほどの大盛況となりました。

また、HTBテレビの取材があり、部員13名によるサツマイモ収穫作業の撮影と、サツマイモを材料に使用した初心者でも作りやすい料理をコンセプトに山内青年部長と藤岡副部長の奥様の山内光さんと藤岡絵梨さんが味噌汁、炊き込みご飯、肉じゃが風おかずを作り紹介しました。その様子が11月24日にHTB放送のテレビ番組「イチオシモーニング」で放送され、放送当日には地物市場とれのさとで青年部員がサツマイモの対面販売会を行いました。また、前日夜放送のTBS系「中居正広のキンスマスペシャル」では「あぐり王国NEXT」でお馴染みの森崎博之さんが、地物市場とれのさとの箱に入った青年部のサツマイモをお土産に持参して「北海道のサツマイモは収穫までの日数が長く、それだけ大地から栄養分を吸収しているのでミネラルや植物繊維が豊富☆」と日本全国に向けて紹介してくれました。2日連続のテレビ放送に『テレビを見て買いに来ました!!』と大反響で、開店前から長蛇の列を作り、多めに用意していた商品が1時間足らずで完売となり、今年度の青年部のサツマイモ販売は大盛況のうちに終了しました。

石狩独身農業青年と独身女性の交流会開催

10月20日、石狩独身農業青年と独身女性の交流会が石狩市農業総合支援センター主催、当ＪＡ青年部の協力で開催されました。市内独身農業者の男性9名と道外含む公募の一般女性9名の参加がありました。

10月16日には、婚活スペシャリストの佐藤律子さんを講師に迎え男性参加者向けの講習会を開催し、当日の身だしなみや振る舞い、会話で気をつけることなどをレクチャーしていただき本番にのぞみました。

当日は、当ＪＡ青年部が育てたサツマイモの収穫体験や高岡地区の増田崇紘さんのミニトマトハウスで収穫体験と試食を行い、高岡地区の田中勝吉さん経営の「わがまま農園Ｃａｆｅ」で、この日のためにサツマイモで特別に作っていただいたスイーツを堪能しながら交流会を行い、石狩産野菜のバーベキューやゲーム大会などで交流を深めました。事前講習会の効果もあって男性陣は積極的にリードして農業体験を通してコミュニケーションを楽しんでいました。

開催8年目の事業で、実際に結婚された方々も多くいらっしゃいますので、今回も良き出会いがあったことを期待しています。

＼ わがまま農園ｃａｆｅでのデザートはこちら ／

★『金時芋』プリンの上にソフトクリーム

★チョコチップシフォンの上に『べにあずま』使用のクリーム

★生地の中に『シルクスイート』を一緒に混ぜ込んだゴマのケーキ

注 今回のイベントで特別に作って頂いたもので、現在メニューにはありません。また、わがまま農園ｃａｆｅの今年の営業は１１月２６日で終了し、冬期間クローズの後、来年４月１日オープン予定とのことです。

北海道農業のために…担い手達がドイツを視察

11月３日〜８日、北海道ＪＡ青年部協議会主催の海外農業視察研修に高岡地区の増田崇紘さんが参加しました。今回の視察先はドイツ・ミュンヘンで、北海道農業とＪＡ運動の発展に寄与するため、次代の農業とＪＡ運動の担い手として先進諸国海外事情等について視察するのが目的です。

移動・宿泊を経て５日、はじめにミュンヘン工科大学農学部にて学生・教員と意見交換会を開催し、ドイツのエネルギー政策の中で農業が大きな役割を果たしている事、消費者は「食」への関心が高く、循環型農業やオーガニックの分野が成長産業として注目されている事など、ドイツ農業の情勢を知ると共に北海道農業の現状と比較しながら対話しました。国民から大きな期待を受けるドイツ農業を担う若者達を羨ましく思う一方で、そういった世論を作っていく大切さを学びました。

続いて、オーガニック農場「ヘルマンス・ドルフ」では、遺伝子組み換えを行わず有機栽培飼料を食べて育ったオーガニック畜産物を見学しました。豚・牛・鶏・羊・畑作物全般を手掛ける観光農園で、近年ドイツでも注目が集まっている分野だそうです。

６日は農機具メーカー「フェント社」を見学し、ドイツを代表するトップブランドメーカーで、５００馬力クラスの特大トラクターから１００馬力ほどの使い勝手の良いものまで取り揃えていました。

「シェイヤー農場」では牛49頭によるオーガニック酪畜を行っており、配合飼料を使わない飼育や人工授精の牛はヨーグルトで育てて人とのつながりを強くするなど、新たな取り組みに積極的にチャレンジしていました。

最終日の７日はミュンヘンの台所「ヴィクトアリエン市場」を視察し、規模の大きさに驚きながらもドイツの新鮮な青果物に舌鼓を打ちました。

作物も地域も違う盟友が出会い、異国の地で自分達と比較しながら、農業の発展を目指して交流を行うことは非常に素晴らしく、今回の視察で得た知識や結束を今後の営農に生かして目的を達成されることを期待します。

石狩管内フレッシュミズ研修会に参加してきました

11月2日、平成30年度石狩管内ＪＡ女性部フレッシュミズ研修会がＪＡ石狩地区女性協議会主催によりサッポロさとらんど農産加工室で14名の参加者のもと開催され、当ＪＡ女性部から川崎寿子部長、後藤久美子さん、山内光さんが参加しました。

同協議会では、毎年若手農業者向けに研修会を開催していますが、近年ではフレミズ部会も2ＪＡのみ（新しのつ、道央）となり参加人数も少ない事から、フレミズ部員に限らず参加を呼びかけて開催されています。今回は、ＪＡさっぽろ理事の丹羽恵子さんを講師にヤーコン入り肉まんとピザ作り講習を行い、調理方法を教わりながら楽しく懇親を深めていました。

肉まんの具材を詰めるのに四苦八苦していましたが、蒸し上がった出来たての肉まんとピザは大変おいしく「子どものおやつに良いね」と大盛況でした。たくさん作った肉まんは家族へのお土産となり研修会を終えました。

全道女性部の優良事例を学んできました☆

11月8日～9日、ガトーキングダムサッポロで第54回ＪＡ北海道女性大会・北海道家の光大会が開催され、当ＪＡ女性部員8名を含む550名が全道から集結して親睦を深めました。

ＪＡ北海道女性協議会青山伸子会長の挨拶で開会し、初日は各地区代表の6名による家の光記事活用体験発表や全国農業協同組合の婦人部が一人10円のカンパで1959年に製作した映画「荷車の歌」の上映がありました。懇親会の前には、サプライズゲストとしてシンガーソングライターの半崎美子さんがＮＨＫ札幌「北海道クローズアップ」のテーマ曲として書き下ろした「明日を拓こう」を含む3曲を熱唱して会場を魅了しました。余興では、石狩地区を代表して当ＪＡ女性部が歌と踊りと楽しい仮装で「てんとう虫のサンバ」を披露して会場を盛り上げました。

2日目は、仲間づくりと学習を通じた次世代リーダーの育成というテーマを参加者全員に投げかけ様々な意見を出し合いましたが、どの単組も部員を増やす事に苦労しているようでした。最後にフレミズの音頭で女性の歌を合唱し全日程を終了しました。

資産運用部会道外研修実施

10月17日～19日、資産運用部会が創立30周年にあたり、東日本大震災から復興までの住宅建設事情等の視察を目的に道外研修を行いました。

訪問先の宮城県亘理町は、7年7ヶ月前に発生した東日本大震災により町内の約半分の面積（35㎢）が浸水、花卉・イチゴ等のハウス損壊や作物の全壊、1，800ha余りの水田が塩害被害を受け、町の庁舎も使用不可能な状態（のちに解体となる）で、延べ173，541人が避難所生活を送りました。建物被害は全壊2，568棟を含む6，200棟余りに及ぶ甚大なものとなりました。現在は復興に向けた土壌改良等により徐々に再建されつつあり、ハウスも数多く建っていました。

震災直後から通信網やアクセス等のライフラインは寸断し、甚大な被害にも関わらず、大きな都市のニュースばかりが報道され、実際に救助（警察・消防・自衛隊）が来たのは3日後だったということを亘理町の語り部の2名の方より説明いただきました。

亘理町荒浜地区の震災慰霊碑。
塔の高さは約2メートル。周りにはさざんかの苗木が植えられています。
参加者全員で手を合わせてきました。

現在は、防波堤が高く積まれ、第一防波堤10Ｍ（嵩上げされ）・第2防波堤7Ｍ、所々に避難の丘（10Ｍ）が造られていました。各学校では1階が基礎高になっていて、3階に避難用品が置かれているとのことです。しかし、完全な復興への道は長く、津波で建物が流され基礎だけがそのまま残っている地域がある他、未だに仮設住宅での生活をされている方々がいるのが現状です。また、仮設住宅の建設に時間がかかり、待ち切れずに新居を建てた方もいるとのことで、今後の課題も多くあると感じました。

被災の大小に関わらず、地元の方々の間では「津波はまた来る」と常に心に留めて準備に準備を重ねているそうです。訪問を終えた会員からは「非常時に備えて新たな準備が必要」「賃貸住宅入居者への非常時への対応を考えなければならない」等の声が聞かれました。いつ、どんな災害が起きるか予測はできません。「備えあれば憂い無し」です。

いざという時のために知っておきたい
～救命講習実施～

10月19日、当ＪＡこどもくらぶ事務局主催によるイベント「お子さまのための救命講習セミナー」を開催しました。こどもくらぶとは、現在２歳未満のお子さまを子育て中の方ならどなたでも加入できるもので、情報誌やアンパンマングッズをプレゼントする他、定期的に様々なイベントを行っている当ＪＡ独自の活動です。

今回は、花川北コミュニティーセンターで、石狩市防災まちづくり協会の三浦仁志さんを講師に招き、７名の子育て中のパパとママが参加しました。

幼児用の人工呼吸・心肺蘇生法を一人ひとり教わりながら体験し、誤飲時の対処法などについて学びました。

なかでも好評だったのは、１１９番への通報の仕方を学ぶもので、実際に訓練用として消防署に電話を掛け、リアルな体験ができる内容でした。参加された方々も職員も滅多にできない体験に感激しました。

参加者がメモを取りながら真剣に聞いている姿が印象的で、「すごく良かった、ためになった」「見守り保育でこどもの面倒をみてくれていたので、安心して講習に参加できた」など大変好評でした。

・・・理事会だより・・・

第10回　定例理事会　～平成30年11月21日～

■ 報告事項 ■

1）農産物出荷状況等について
2）ホクレンによる胆振東部地震・台風21号被害に対する災害対策について
3）余裕金運用状況報告について
4）組合員加入・脱退状況について
5）内部審査結果報告について
6）第３四半期自治監査について
7）事業進度状況・決算見込みについて
8）年末手当の支給について
9）石狩市農業所得協力委員会に係るＪＡ事務局移管について
10）農業委員会総会について

■ 審議事項 ■

1）貸付金の申込み査定について
2）貸付金の返済条件変更について
3）平成30年度農業経営緊急支援資金について
4）組合員の出資口数の減少の承認について
5）北海道検査指摘事項に対する改善状況等の報告について
6）組合員規程の一部改正について
7）会議体管理規程の一部改正について
8）事務引継規程の一部改正について
9）規程類管理規程の一部改正について
10）文書管理規程の一部改正について
11）職員就業規則の一部改正について
12）旅費・実費弁償規程の一部改正について
13）給与規程の一部改正について
14）安全衛生規程の一部改正について
15）宅地供給事業実施要領の一部改正について
16）資産の償却・引当基準の一部改正について
17）除雪業者の選定について

スーパーとの違いにビックリ!!
生振小3年生がとれのさとで社会科見学

9月13日、生振小学校3年生16名が地物市場とれのさとに社会見学に訪れました。

葛西係長より店舗の概要説明を行い、児童からは「一日のお客さんの数を教えてください」「どんな野菜が人気ですか？」などたくさんの質問が出ました。その後、店内を見学して実際に野菜を手に取って見てもらい、始めて店内に入った児童は農産物に特化した売場を見てスーパーとの違いにとても驚いていました。当日は平日の午後で比較的に店内が落ちついている時間帯だったので、ゆっくりと見学できました。

また、年齢問わず人気のソフトクリーム販売コーナーでは「お父さんとお母さんと一緒に食べてみたい」などの声も多く聞かれ、次回はご家族でのお越しを心よりお待ちしています。

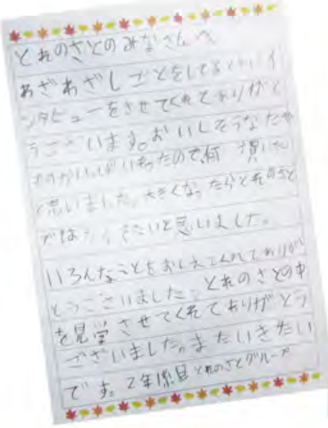
元気いっぱい☆南線小学校２年生が見学！

10月18日、南線小学校2年生26名が生活科施設見学で地物市場とれのさとを訪れました。前田職員による店舗概要説明では、児童から「お客さんは何人来ますか？」など「人気の野菜は何ですか？」など多くの質問が飛び交いました。

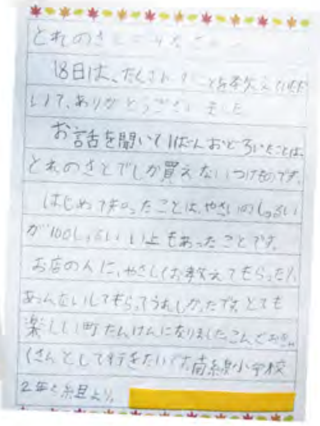
店内見学では、南瓜を実際に手に取って見てもらい、いろんな色や形があるのに驚いたり、初めて見る生の落花生に興味津々の子や、お米は最初から白くない事を初めて知った子もいました。中でもソフトクリーム販売に興味が集まり「次はお父さんとお母さんに連れてきてもらう」などの声があちこちから聞こえてきました。

生憎の雨模様で、いつもよりも来店客の少ない時間帯でしたが、子ども達の色とりどりのカッパとかわいらしい姿で、店内を明るく彩ってくれました。

後日届いたグループごとの
お礼状より抜粋



とれのさとのみなさんへ
あざあざしごとをしてるとちゅうイ
ンタビューをさせてくれてありがと
うございます。おいしそうなたや
さいがいっぱいあったので何か買いたい
と思いました。大きくなったらとれのさと
ではたらきたいと思いました。
いろんなことをおしえてくれてありが
とうございました。とれのさとの中
を見学させてくれてありがとう
ございました。またいきたい
です。2年1組 とれのさとグループ



とれのさと
18日は、たくさんのことを教えてくださ
いまして、ありがとうございました。
お話を聞いていちばんおどろいたことは、
とれのさとでしか買えないつけものです。
はじめて知ったことは、やさいのしゅるい
が100しゅるいい上もあったことです。
お店の人に、やさしく教えてもらったり
あんないしてもらってうれしかったです。とても
楽しい町たんけんになりました。こんどお
くさんとして行きたいです。南線小学校
2年2組より。

今月の表紙紹介
～撮影オフショット～

▲とっても真面目で頑張り屋さんの前田さんは、出荷品種数は会員の中でもトップクラス。１００種類以上の野菜で店内を彩ってくれています。

今月の表紙は、直売所出荷者協議会の前田（まえだ）まさ子（こ）会長です。平成２０年に同協議会が発足以来、また各協議会を通じて当ＪＡ初の女性会長です。

▲とれのさと前での撮影に、表紙はちょっと恥ずかしいとのことでしたが、笑顔がとってもステキです。

▲地物市場とれのさとに発展するきっかけとなった平成９年の野菜販売のテント時代当初からの最長メンバーの一人です。

▲以前、テレビ撮影で吉幾三さんと共演した際に「まさちゃんのトマトはすごく甘くて美味しいから本当は苦手な俺でも食べれちゃう～♪」と吉さんが感動してコブシを回しちゃった程☆

年末年始業務のお知らせ

		12月28日(金)	12月29日(土)～30日(日)	12月31日(月)	1月1日(火)	1月2日(水)～3日(木)	1月4日(金)	1月5日(土)	1月6日(日)
本店	金融共済課 総務課	通常営業 ATM17時まで	休業	休業	休業	休業	通常営業	休業	休業
本店	営農部·資材課	通常営業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業
本店	八幡給油所	通常営業	通常営業	8時～12時	休業	休業	通常営業	通常営業	通常営業
花畔	花畔支店	通常営業 ATM17時まで	休業	休業	休業	休業	通常営業	休業 資産管理部門のみ 9時～12時営業	休業
花畔	花畔給油所	通常営業	通常営業	7時～18時	休業	8時～17時 ピット作業は休業	通常営業	通常営業	通常営業
とれのさと		通常営業	休業	休業	休業	休業	休業	通常営業	通常営業

※とれのさとは１２月１日～３月３１日まで冬期営業のため、営業時間が１０時～１５時、定休日が毎週水曜日に変わります。
（但し、水曜日が祝日の時は営業し、翌日が振替休業日となります。）

年末年始の休業期間中事故対応

◆カード・届出印・通帳の紛失◆
JAバンクキャッシュカード紛失協同受付センター
【休日24時間対応】【平日17時～翌日9時】
連絡先：0120-944-904（フリーダイヤル）

◆交通事故等◆
JA共済事故受付センター（365日24時間対応）
連絡先：0120-258-931（フリーダイヤル）

◆車両トラブル等◆
JA共済サポートセンター（365日24時間対応）
レッカー・故障等のロードサービス
連絡先：0120-063-931（フリーダイヤル）

１月からの新コーナーのお知らせ

新規就農４年目を迎える波多野夢子さんによる新コーナーが始まります。農業のこと、日々感じたことなど様々な話題をお届けします。お楽しみに！！

おくやみ

生振地区 生振第１ 森 陽子 さん
享年80歳 平成30年11月2日逝去
謹んでお悔やみ申し上げます。

〝還暦おやじ〟の新人農業者手帳

平成27年度新規就農者 **遊佐宏文**

一、畑が〝道場〟

平成二十七年〝年末〟に農業者となり、翌二十八年の〝春〟には初収穫となるアスパラに期待していました。購入した農地の一角にアスパラ畑があったのです。三月はじめ、柄の部分に定規のついたアスパラ鎌を妻の分も購入して「初収穫はアスパラだ。さあ、伸びてこい!!」とばかりに待ち構えていたのですが、結果は散々…鉛筆のような細いアスパラばかり…消費者に買ってもらえるような品質ではなかったのです。自分で手掛けていなかった畑に期待していた私が浅はかでした。そんなある時、ある方からカキ殻石灰をやったら良くなるとのアドバイスをいただいたこともあって、見込みのありそうな畑の三分の一を残してそのアドバイスを実践しつつ、いちから畑の手入れをすることにしたのです。

私にとって最初の〝道場〟がこのアスパラ畑になりました。びっくりするほどの雑草取りから始まって、周辺の先輩農家の様子を垣間見ながらアスパラの倒伏防止の柵を作ってみたり、肥料をやってみたり、冬を前に枯れた枝を切り払ってみたりなどと、畑の語りかけにじっくりと取り組む日々のはじまりでした。

▲空飛ぶ南瓜も道場での取り組みのひとつ

畑は、自分の取り組みという問いかけに対し野菜の出来という形で答えてくれます。残念ながらこれまで期待通りの答えをもらったことはありません。何かがうまくいっても別の何かに躓いています。このアスパラ畑も然りです。更に上を目指せと道場に言われているのだと自分自身に言い聞かせ、日々精進するしかありません。

▲農業者となり最初に購入したアスパラ鎌

二、地産地消に役立ちたい

地産地消。最近ではすっかり定着した感じですが、百年ほど前までは世界中がそうだったといっても過言ではないでしょう。近年見直されたにすぎない言葉なのです。大航海時代以来地球上の富が船舶や鉄道更には航空機で運搬されるようになりました。子供のころ、ビフテキといえばアメリカの富の象徴のような料理だったやに記憶しています。最近は安価な牛肉をいつでも食することができるようになりましたが、生鮮野菜は日持ちしないこともあり時に牛肉より割高になることさえあります。フードマイルのかかった野菜であれば更に輸送代金が加算されるので、冬季間に野菜の生産に制限のある北海道では益々割高となるわけです。通年栽培できる野菜農家の増加こそが地産地消に必要です。

一方「葉酸」の摂取が健康長寿の必須要件ということがテレビなどで大きな話題となり数年が経過しました。冷凍肉や冷凍魚などでは補えないミネラルとビタミン、特に葉酸が豊富で新鮮な地元野菜を食べ続けてもらうことこそが、地域の消費者の健康長寿に役立つと信じて疑いません。JAいしかり地物市場とれのさと出荷者協議会の一員として、通年栽培を通じ、地産地消に微力ながら尽力する所存です。

日本最大の直売所・福岡県の「伊都菜彩」をはじめ、機会あるごとに各地の直売所を見てきましたが、我らが〝とれのさと〟は小さいながらも活気があって、生産者の顔々が間近に見え、とってもいい直売所であると思います。本当ですよ。

三、野菜ソムリエの妻から一言

農業女子となる前はスーパーに10円、いえ5円でも安い野菜を求めて行っていました。しかし野菜を生産してみて分かったのですが規格外品いわゆるハネ品がかなり発生し、自動的に我が家の食材となります。いまや冷蔵庫は野菜で一杯…料理するのが大変ですが、食卓は色とりどりの野菜料理で豪華になりました。

▲『ジュニア野菜ソムリエとして頑張ります』

四、最後に

自衛隊員として37年間勤務しましたので、農業者としては一年上回る38年間を営農したいと考えています。あと36年です。実現すれば96歳。私が80歳を迎える20年後にはノーベル賞受賞者山中伸弥教授のＩＰＳ細胞によって死ねない体になっているはずだ、というのが大雑把な予想ですが、どうなるでしょう??防大生のころに定年退官する自分を想像できなかったのと同じように、四半世紀以上先のことは分かりません。しかしながら、故郷の大地で太陽からの光を野菜という恵みに換えて消費者の元に届け続けたいと思っています。

最後に、ド・素人農家である〝還暦おやじ〟のつぶやきに一年間関心を寄せていただき、誠にありがとうございました。

（了）

（平成三十年十一月十日記）

JAいしかり
2018年12月号 Vol.357　2018年12月11日発行　発行／石狩市農業協同組合　〒061-3361 北海道石狩市八幡2丁目332-11
TEL:(0133)66-3321　FAX:(0133)66-3131
ホームページ：http://www.ja-ishikari.or.jp